

# Follow your passions and goals to achieve true success

中央アジアのユニセフ事務所で支援活動 加藤真理子さん 困難を学びの機会に変えて、目標へまっすぐ

今回は、国連児童基金(UNICEF=ユニセフ)がキルギス共和国で進める支援の現場で働く加藤真理子さん(30)に話をうかがいました。国連ボランティアとして約2年間、地方事務所での平和構築活動に携わり、この春からは、日本政府の制度で首都事務所に派遣されています。ユニセフの正規職員になりたいという幼い頃からの夢に向かって着実に歩んでいる加藤さんに、現在の仕事や英語とのかかわりなどを聞きました。

(聞き手：渡部佐枝子)

## Speak up @ Work

**Q: 国連ボランティアとして活動したキルギス南部のオシュ事務所ではどんなことをされたのですか?**

**A:** 主に、五つの国連機関によってタジキスタンとの国境付近で行なわれている国連平和構築基金拠出のプロジェクトに参加し、教育分野を担当しました。

**Q: どういう地域なんですか?**

**A:** フェルガナ盆地とって、キルギス、タジキスタン、ウズベキスタンのそれぞれの民族が「国」という概念がほぼない暮らしをしていた地域です。そこに、ソビエト連邦ができ、27年前にはそのソ連がなくなったことで、突然国境ができました。ただ、実は今も約50%の「国境」に政府同士の正式合意がなく、土地や水資源などをめぐって紛争が起こりやすいんです。

**Q: 平和構築事業と教育活動の関係とは?**

**A:** 異なる民族同士がお互いをよく知らず近くに住んでいると、ささいなことがいさかひの火種になります。キルギス国内での事例ですが、2010年にウズベク系住民とキルギス系住民の民族間衝突がありました。うわさ程度のことが原因で若者同士が衝突したのを皮切りに、軍が出動し多くの死者が出る事態にまでなりました。

キルギスのような国では特に、異なる民族同士が友好関係を築けるよう若いうちから素地を養っておくことが重要です。そこで、このタジキスタン国境付近でのプロジェクトでは、両国で今も広く使われている、共通言語としてのロシア語教育の強化に乗り出しました。キルギスの学校ではロシア語を教えています。昔ながらの文法や読み書きが中心で、長年習っていながら話せないという子が多いんです。

**Q: どこかで聞いたことのある状況ですが。**

**A:** 旧来の日本の英語教育と似ているかもしれません(笑)。国境付近の学校12校でロシア語を教える先生のトレーニングと、180人の生徒を対象にしたロシア語の課外活動を導入しました。私自身はあいさつ程度しかわからないので、英露通訳の方についてもらって業務に当たりました。



国境に面したキルギスの小学校の校門にて。手前側がタジキスタン。学校名が書かれたバナーのキルギス国旗のすぐ下に投石の跡が残っている (本人提供)



キルギスは親日国とのことで、タクシーの運転手に「僕らの民族は昔兄弟だった」と言われたことも＝東京都渋谷区のユニセフ東京事務所 撮影＝渡部佐枝子

**Q: 先生のトレーニングとは?**

**A:** 会話中心で生徒同士でも楽しく学び合えることを目指した授業の経験が、現地の先生たちにはほとんどありません。そのためテキストをまず作り、さらに、テキストを効果的に使う方法を、先生たち自身に考えてもらいました。

地元の大学でロシア語を教えている人にコンサルタントとして協力してもらい、トレーニングプランを練りました。基本的にはコンサルタントの方が計画を立てますが、ゴーサインを出すのはユニセフです。グーグル翻訳を使って、提案全てを英語に訳して私自身もプランの確認をしました。

**Q: 生徒たちを対象にした課外活動はどうでしたか?**

**A:** 何人かの生徒から、タジキスタン人の友達ができたと感想があったんです。あるキルギスの子が、(国境をはさんで)近くに住んでいると分かっていただけ話したことがなかったタジキスタンの子に話しかけてみた。勇気をもって「How are you?」とロシア語で言ったら、相手もロシア語をちょこっと。実際にロシア語を使えたのも自信になった。こういう声は何よりもうれしいです。

**Q: 加藤さんのユニセフとの出会いは?**

**A:** 小学校の5年生から中1までバングラデシュにいました。父が現地の日本人学校の教師だったのですが、両親の知り合いにユニセフ職員の方がいらして、「かっこいい!」と思ったんです。バングラデシュで英語を学び、英語を話す友人もできました。

**Q: 帰国後、英語を維持する工夫はされていましたか?**

**A:** 各国に散らばっていった友達とメールをしたり、映画を見る時に字幕版で音を聞くようにしたりしていました。

日本で転入した中学校の外国語指導助手の先生が気にかけてくださったのも大きかったです。日系アメリカ人の女性だったんですが、お互いの家を行ったり来たりもしました。

高校時代には1年間カナダのケベックに留学しました。フランス語を勉強するためです。国連では、機関にもよりますが国連公用語(英語、フランス語、スペイン語、中国語、ロシア語、アラビア語)のうち二つ以上話せれば応募できるポジションが増えるからです。

実は、留学さえすればフランス語は自然にできるようになると思っていました。バングラデシュでの英語習得の経験があったので。でも違いました。高校生ぐらいになると、恥ずかしさや間違いを恐れる気持ちが強くなってしまふせいか、伸び悩むことがありました。

**Q: 大学では何を学ばれたんでしょうか?**

**A:** 分野横断的に学べるリベラルアーツを選びました。学部での授業がすべて英語だったのも決め手のひとつです。国連の職員になるには修士号が必須なので、院進学はもともと視野に入れていました。院では、途上国の教育政策に研究テーマを絞り、ユニセフのインターンとして半年フィリピンへ。政府が行った幼児教育制度の急激な改革のため、教育現場が大混乱している時でした。現場の声をすくうべく幼稚園で聞き取り調査をして、政策提言を論文にまとめました。

調査で訪れた幼稚園の先生方から、「私の授業はどこを直した方がいい?」とよく質問を受けました。でも、私には教えた経験はおろか、資格すらないので自信を持って答えられませんでした。そのことがきっかけで、日本に戻って保育士の資格を取ろうと思いました。

**Q: 大学院卒業後に、保育士の資格を取ろうと?**

**A:** ユニセフの教育保育分野の専門家として、ただプロジェクト運営ができるだけの職員ではなく、現場経験がある専門性の高いプロになりたいと思ったんです。

保育士国家試験の勉強をしながら、日本の保育現場で働こうと考えました。より困難な状況にある子どもたちと向き合いたい気持ちが強かったので、保育園ではなく、児童相談所に併設された一時保護所でアルバイトとして働きました。

**Q: それから国連に応募し始めた?**

**A:** 国連に応募するには、類似の職務経験が最低2年必要です。児童相談所の後に大学の異文化交流センターの職員として働いたところで、応募し始めました。外務省が実施する「平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業」に採用され、2016年5月からキルギスに派遣されることになったんです。今年の4月からは、国際機関の正規職員を志望する若手を対象とした「JPO派遣制度」を利用して、首都のビシュケク事務所に移っています。

**Q: お仕事全般を英語でされていますが、ご自分の英語についてはどう思われていますか?**

**A:** バングラデシュには子どもの頃にいただけなので、大人の英語を話してはいませんでした。大学の授業は英語でしたが、アカデミックな英語なので、ビジネスとはまた違います。今は意識して仕事関係のレポートをたくさん読んで、この表現はいいなとか、これは上手に聞こえるなと感じたフレーズはメモして、まねして使っています。

**Q: 英語の勉強で心がけていることはありますか?**

**A:** 去年、10年ぶりくらいにTOEFLを受験しましたが、思ったよりリーディングができませんでした。科学系の問題が多くて苦戦したんです。ですから、最近ではあえて苦手分野の記事をウェブで読んだり、ナショナルジオグラフィックのポッドキャスト(インターネットの配信番組)を聞いたりしています。

これから留学を考えている方は、TOEFLを求められることが多いと思います。英語が得意なはずだけど点数が伸び悩むという時は、分野の偏りがあるかもしれません。守備範囲を広げるというのも手だと思えます。

### ★ 英語を学ぶ人たちへのメッセージ

As Albert Einstein rightfully said, "The more I learn, the more I realize how much I don't know." I believe that one's commitment to continuous learning is the key to master something, including English. There will be many challenges along the way, but let us take them as opportunities for learning more.